

## 連合宮城

# 『第76回地方委員会』を開催！



大黒会長挨拶

連合宮城は、2024年2月27日(火)、ハーネル仙台(仙台市)において、議長団に埴ゆかり地方委員(自治労)、佐藤優作地方委員(自動車総連)の2名を選出し、「第76回地方委員会」を開催した。当日は役員を含め、総勢91名が出席した(総数115名)。

執行部を代表し大黒会長は、本年1月1日に発生した能登半島地震で被災した方々にお見舞いを申し上げるとともに、「連合本部と連携し復興の支援をしていく。宮城県も東日本大震災を経験しており、教訓や体験を県内外に発信していく。」と述べた。

この他に、①2024春季生活闘争では、大企業から中小・地場企業、そして非正規で働いている人たちまで賃上げの効果を実感できることが重要であり、そのためには労務費を含めた適正な価格転嫁が求められており、「人への投資」とともにデフレマインドから脱却し、持続的に賃金が上がる取り組みを行っていく。②自民党の不祥事が全容解明されない中、政治を変えるには国民ができることは多岐にわたる。これまで「投票へ行こう」を掲げてきたが、これからは「投票行動で政治と社会を変える」ということが重要なポイント。特に若年層が政治への関心を強め、働く者の意見を政治に反映をしていくことが求められる。連合も政策制度実現に向け、しっかりと取り組みを行っていく。③現在の労働組合の組織率は20%を割っており、多くの労働者は集団的労使関係の中にいないということが問題。労働組合は全ての働く者の中心として雇用の確保、労働条件の向上、ジェンダー平等などの活動強化に向けた取り組みが重要。と3つのポイントについて触れた。

その後、一般活動報告ならびに2024年度中間会計決算・監査報告が承認され、岡本地方委員(自治労)からは、『県立病院を含む4病院の統合問題』について、現状と課題、取り組み状況について報告をいただくとともに、今後の対応についての決意が述べられた。議案では、2024春季生活闘争方針(案)や第50回衆議院選挙対応方針(案)、第95回メーデー宮城県大会開催(案)が提案され、満場一致で承認された。



議長団  
埴ゆかり地方委員(左)・佐藤優作地方委員(自動車総連)(右)



現状報告をする岡本雄大地方委員(自治労)

### 第76回地方委員会議案

- 第1号議案 連合宮城2024春季生活闘争方針(案)について
- 第2号議案 連合宮城第50回衆議院選挙対応方針(案)について
- 第3号議案 第95回メーデー宮城県大会の開催(案)について
- 第4号議案 連合宮城役員の交代について
- 第5号議案 連合宮城役員の表彰について
- 第6号議案 その他



# 連合宮城 2024 春季生活闘争



## 2.22 勝利総決起集会

連合宮城 2024 春季生活闘争



連合宮城は、今次闘争を取り巻く情勢や構成組織の方針の共有、勝利に向けた団結を目的に、2月22日(木)の仙台市勾当台公園において、5年ぶりとなるデモ行進を含めた「勝利総決起集会」の開催を予定していたが、前日からの降雪により、公共交通機関の大幅な遅れや市内の道路状況、現地会場の状況も含め、参加者の安全確保を最優先として、屋外での集会の開催を中止した。代わりに、開催内容を変更した上で、連合宮城「第76回地方委員会」終了後に、構成組織からの決意表明ならびに集会アピール(案)を確認した。

【変更後】 ○開催日時 2024年2月27日(火) ※「第76回地方委員会」終了後

○開催場所 ハーネル仙台 2階「松島」

○開催内容 (1)各構成組織における決意表明(JAM、基幹労連)  
(2)集会アピール(案)採択(阿部副事務局長)



佐野氏(JAM)



池田氏(基幹労連)

構成組織からの決意表明では、産業を取り巻く情勢や要求方針、今次闘争における具体的な取り組み内容を報告いただくとともに、集会アピール(案)について読み上げ、参加者全員の拍手で採択された。

最後は、大黒会長発声の下、今次春季生活闘争の勝利に向けて「団結ガンバロー」で締めくくり、閉会した。



## すべての働く者の底上げ集会

連合宮城 2024 春季生活闘争



連合宮城は、2024年3月26日(火)仙台市において、4月以降に本格的な山場を迎える中小企業や地場産業に働く労働者・組織などの支援と世論喚起、すべての働く者の賃金の「底上げ」「底支え」「格差是正」および「すべての労働者の立場にたった働き方」の同時実現を目的に、「2024 すべての働く者の底上げ集会」を開催した。当日は総勢約80名が参加した。

冒頭主催者を代表し大黒会長は、「2024 春季生活闘争において、先行組合が引き出した回答は33年ぶりとなる高水準であった。大手企業を中心に要求額を上回る回答があるなど、この流れを今後本格化する中小・地場組合の交渉に波及させなければならない。しかしながら、中小企業においては、物価高や人手不足の課題が山積する中で、賃上げをする環境としては十分であるとは言えない。大手企業では純利益が過去最高を更新するなど、内部留保も570兆円と潤沢であるが、労務費を含めた適正な価格転嫁により、中小企業が賃上げできる環境を社会全体でつくっていかなくてはならない。そしてこの賃上げの流れを労働組合のない企業にまで波及させ、『人への投資』によって、経済社会を発展させていきたい」と述べた。

基調講演では、連合総合政策推進局労働条件・中小地域対策局の酒井次長を招き、「賃上げできる環境整備に向けた適正な価格転嫁について」と題し、今次闘争を取り巻く情勢や、方針のポイント、価格転嫁に関する各種取り組みについて丁寧に説明を受けた。また、出身組織の春闘の取り組み状況を踏まえながら、今後本格化する中小・地場組合に対して、勇気づける熱い激励のメッセージをいただいた。

つづいて情勢報告については、佐竹事務局長より連合本部・連合宮城の現時点における妥結結果を報告いただくとともに、リレートークとして、既に妥結した組織(JR総連)からの今次交渉の結果や、これから本格的なヤマ場を迎える地場・中小組織(石巻地協[地場組織]・運輸労連)からの取り巻く情勢、交渉状況についてマイクを繋いだ。

最後は大黒会長の発声のもと、連合宮城が一致団結し戦い抜くことを誓い合い、「団結ガンバロー」により締めくくった。



基調講演いただいた酒井次長



妥結組織  
齋藤氏(JR総連)



決意表明  
高瀬氏(石巻地協)



決意表明  
水野氏(運輸労連)

みんなで賃上げ。  
ステージを変えよう!





# 2024 春季生活闘争労使懇談会

## 連合宮城 2024 春季生活闘争



連合宮城は、春季生活闘争におけるヤマ場の前段において、連合宮城・宮城県経営者協会「労使懇談会」を以下のとおり開催し、2024 春季労使交渉に関する諸課題について意見交換を行った。

- 開催日時 2024年3月1日(金) 14時00分～15時00分
- 開催場所 江陽グランドホテル 3階「白鳥の間」
- 開催内容 (1) 労使代表者あいさつ  
(2) 「2024 春季生活闘争に関する要請書」手交  
(3) 意見交換会



○出席者 連合宮城四役（9名）、宮城県経営者協会（18名）

宮城県経営者協会の増子会長は、経労委報告のポイントについて触れるとともに、①原資を継続的に確保するためには、「稼ぐ力」を強化することが不可欠であり、生産性の改善・向上が急務。②賃上げの機運醸成には働き手の約7割を占める中小企業と、約4割を占める有期雇用等労働者の賃上げが不可欠であり、人件費の上昇分を含めた適正な価格転嫁を社会全体で受け入れる意識改革が必要。③企業の持続的な成長のため、それを担う人材の確保・育成に向け、企業は総合的な処遇改善や人材育成による「人への投資」の促進が求められる。と述べた。また地方の立場として、「昨年は30年ぶりとなる高い水準の賃上げが行われたが、『防衛的賃金引上げ』を行った中小企業も少なくなかった。地方・中小企業の立場からすれば、価格転嫁が十分には進んでおらず、大幅な賃上げを継続的に行うのは難しい企業が多いというのが実態ではないかと感じている。そのためにも、中小企業における生産性の改善・向上に向けた、大手企業や、国・自治体による助成・支援など、より一層の環境整備が求められるとともに、適切な価格転嫁のさらなる浸透により、社会的規範にしていくことが必要である」と挨拶。

連合宮城の大黒会長は「昨年は、物価上昇局面での取り組みとなり、これまで以上の積極的な「人への投資」を継続することでデフレマインドを払拭し、経済社会のステージ転換をめざす難しい取り組みであった。特に中小企業の賃上げが十分でない中、不安定雇用の拡大と中間層の低所得化が進み、格差が拡大しているとの指摘もある中、経済が安定した回復力を取り戻すための課題について、労使がともに考えていくことが重要である。これらを踏まえ、経済の好循環を実現するためには、賃上率が一段と高まることで、消費拡大や企業の成長、収益性の向上、雇用の増加など、経済的でポジティブな影響が期待される。そのためには、原材料費や人件費の高騰分の価格転嫁を進めることが求められる。これまでの労使交渉の結果、「人への投資」は企業や国の政策にとっても中心的課題と位置づけられてきた。長きにわたるデフレによって、物価や賃金が上昇しにくい状況が定着していることは、日本経済において重要な課題である。結びに、能登半島地震に関して、経済社会が新たなステージのもとで好循環と活力を取り戻すことが、復旧・復興支援の環境を整えスピードアップにもつながるものであり、その点からも今次交渉の意義と役割は一層重要性を増している。労働者・企業・社会を豊かにしていくという重要な役割を担っていることを改めて社会へ発信するため、本日の要請に対しご理解を賜りますよう宜しくお願い申し上げます」と述べた。

労使懇談会では今次春季生活闘争を取り巻く状況について意見交換を行った。

### 連合宮城 2024 春季生活闘争に関する要請項目

- (1) 賃金引き上げ、「底上げ」「底支え」「格差是正」の取り組みについて
- (2) 労務費を含めた適正な価格転嫁等の取り組みについて
- (3) 「すべての労働者の立場にたった働き方」の改善について



▲連合宮城



▲増子会長に要請書を手交する大黒会長(左)



▲宮城県経営者協会

## 連合宮城青年委員会「2024 青年春闘フォーラム」を開催!

連合宮城青年委員会は、2024春季生活闘争の取り組みとして「2024青年春闘フォーラム」を開催した。

今年は、日中帯に開催された Action36 街頭行動へ幹事2名も参加し、一番町平和ビル前にて、「36（サブロク）の日」に関連した内容について街頭にて訴えた。

その後に開催した春闘フォーラムでは、セミナーとグループディスカッションを実施し、幹事も含め総勢24名が参加した。

主催者を代表して松長青年委員長は、青年活動への参加について御礼を述べるとともに、36の日の街宣行動や2024春季生活闘争の情勢などにふれ、今後も青年活動への参加をお願いした。

セミナーでは、連合宮城の大黒会長から『知ることによって説得力を高める』のタイトルで、春闘を取り巻く情勢や組み立て、考え方などについて丁寧に説明があり、春闘だけではなく運動を進めるうえで、知識を高め説得力を高めた運動の重要性を説明した。

ディスカッションにおいては、4つのグループに分かれそれぞれの単組や職場の状況などについて情報共有・意見交換を行った。

短時間での開催となったものの、交流しやすい環境づくりと春闘における基本的な取り組みなど、今後の青年委員会活動の充実につながる機会となった。



(写真上から2番目)セミナーの様子、  
(3番目)グループディスカッションの様子

- 日 時：2024年3月6日(水) 17:00～19:00  
※Action36 街頭行動 11:40～12:30
- 場 所：ハーネル仙台 2階「島山B」
- 内 容 ①開 会 能崎事務局長  
②主催者挨拶 松長委員長  
③セミナー「知ることによって説得力を高める」  
連合宮城 大黒会長  
④グループディスカッション  
⑤閉 会
- 参加者：17人(内女性：4人)、幹事：7人、事務局：4人



街頭宣伝の様子

## 連合宮城女性委員会「3.8国際女性デー宮城県行動」を実施!!

3.8国際女性デー宮城県実行委員会(連合宮城女性委員会・立憲民主党宮城県連・立憲民主党宮城第二県連・I女性会議宮城県本部)は、3月8日(金)、2024春季生活闘争と連動し、女性の地位向上や男女平等の取り組み推進を目的として宮城県行動を行った。

取り組みとしては、11時45分より一番町平和ビル前において街宣行動を行い、実行委員会構成団体より23名が参加した。

構成団体代表者によるリレートークを行い、連合宮城労働相談ダイヤルを記載したチラシ入りのティッシュ、女性の尊厳と人権の確保を表すバラの花等約800本を街頭で配布し、「ジェンダー平等」、「女性活躍推進」や「すべてのハラスメント・暴力の根絶」等について訴えた。

宮城県集会は5年ぶりに開催し、約70名の方々より参加をいただいた。

基調講演として、ヘアサロンウイング代表・にじいろ canvas 共同代表の小野寺 真様より、自身の経験したトランスジェンダーとしての苦悩や葛藤について、体験を基本に LGBTQ+ が働きやすい環境に向けて講演をいただき認識を深めた。

### 《街宣行動》

- 日 時：2024年3月8日(金) 11:45～12:30
- 場 所：一番町平和ビル前
- 参加者：連合宮城より10名(実行委員会全体として23名)

### 《宮城県集会》

- 日 時：2024年3月8日(金) 15:00～17:00
- 場 所：ハーネル仙台 3階「蔵王B」
- 内 容：〈基調講演〉  
演題：「LGBTQ+が働きやすい職場環境に向けて」  
講師：ヘアサロンウイング代表・にじいろ canvas 共同代表 小野寺 真 様  
〈集会アピール採択〉 連合宮城女性委員会事務局次長 畠山 南  
参加者：全体約70名(連合宮城より55名)



◀(写真上から2枚目)配布の様子(ハフ)、3枚目)街頭宣伝の様子(4枚目)講演をいただいた小野寺様